

欧米文化選修とは

何を学び、研究するのか？

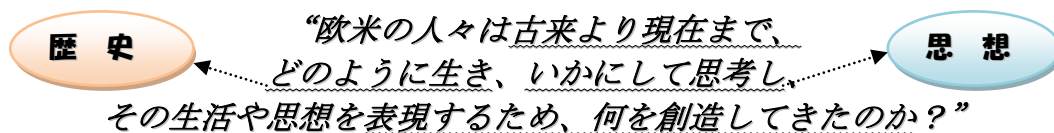
欧米社会が育んだ思想や文化が、世界の政治や経済はもちろん、私たちの身近にある生活習慣や娯楽、行事や法律にも大きな影響を与えてきたことはよく知られています。こうした**ヨーロッパやアメリカの文化と社会**をさまざまな角度から学び、そこから**私たち一人一人の人間がどのように生きるべきか**を学問的に探求します。

古典古代から最新の欧米事情まで

「**欧米の社会と人間**」また「**文化**」といっても、その範囲はとても広く、幅広い内容におよびます。地域でいえば**ヨーロッパ・ロシアからアメリカ**、時代的には**古代のイスラエル、ギリシア、ローマからごく最近の欧米諸国**までとなります。さらに、このように広く多様な領域から自分の研究テーマを見つけ、これをどのような方法で研究するかとなれば、**文学、芸術、映像文化、歴史、哲学、倫理、古典**など、いくつもの研究領域に分かれることになります。

3本柱で読み解く欧米文化

そこで欧米文化選修では、「**文化**」「**歴史**」「**思想**」の3本柱にそって、日々の授業と卒業研究の指導内容を組み立てています。ただし、この3つの柱はまったく別々の分野というわけではなく、時に重なり、支え合っています。これまで、どのような卒業研究が書かれたかについては、後段の「過去三年間の卒業研究から」を参考。



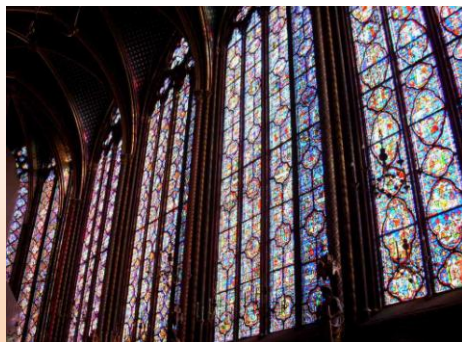
教員の顔ぶれ (下の表)

教員の専門分野や授業の内容を、ヨコに3本柱をより細かくした**研究領域**、タテにどのような**国・地域についてどんな外国語を用いるか**にそって図示しています。さらに詳しくは「各教員の頁」を参考。

古今の欧米文化から何が見えるか？

今日、民間企業や国・地方自治体において、また日常生活のさまざまな場面で、国際的な視野が求められるなか、欧米社会は私たちにとってもっとも重要な異文化のひとつです。**長い歴史をもつ欧米の文化や思想を**探求することを通じて、**私たちとは異なる文化や社会をどのように理解すればよいのか？**を深く考えてみませんか。国際社会で起こるさまざまな出来事とともに、皆さんの好奇心次第では、身の周りの生活や社会をふり返るうえで、何か大切なことが見えてくるかもしれません。

パリのゴシック教会のステンドグラス



<サン=シャペル> : 2007年現地撮影

ロシア・アニメのキャラクター



<チェブラーシカ> : 2009年現地撮影

文化



卒業研究の中間発表会 : 2009年10月開催

研究領域 — 多様な学問と言語によって読み解く —

「文化」

「歴史」

「思想」

文学

芸術

表象

国別

テーマ別

古典

哲学

倫理

地域と言語 — 欧米の文化と伝統の深みを味わう —

米 国

英語

村 上：1980年代までの合衆国文学・音楽・映画、人権、フェミニズム、環境問題

中 尾：アメリカ文学、ハリウッド映画、批評理論、文化と社会

英 国

英語

佐々木：英文学、シェイクスピア、演劇、絵画、民衆文化、ファンタジー&児童文学

大 西：現代演劇、映画、現代文化、階級、多文化社会、地方、ジェンダー

ロシア・東欧

ロシア語

長谷川：

ロシアの文学、美術、映画、アニメーション、文化論、チェコの映像文化

ドイツ・オーストリア

ドイツ語

川 東：

ウィーンの文学、詩、オペラ、造形美術、色彩と香りの感覚

フランス

フランス語

ルネサンス、近代芸術と流行

古代ギリシア・ローマ

古典ギリシア語
ラテン語

ギリシア神話、ホメロス、ギリシア悲劇、ラテン文学

ユダヤ社会

ヘブライ語

イスラエル国とユダヤ教

中世ヨーロッパの王と貴族たち、ローマ法・教会法と国家

近 藤：プラトン、ヘレニズム哲学、心と世界

立 花：ユダヤ・キリスト教思想、近代思想、正義と善、理性と信仰、ポパーと批判的合理主義

過去3年間の卒業研究から

文化

文学：英米・ドイツ・ロシア・神話

1. 「不思議の国のアリス」のフシギー ルイス・キャロルが仕掛けたもの —
2. シャーロック・ホームズ対切り裂きジャックー ヴィクトリア朝イギリス社会が求めたもの —
3. 『ハムレット』における死と摂理
4. 『ナルニア国物語』に見る異世界への扉
5. ピーター・パン、大人にならない少年
6. カフカにとっての「書く」こと
7. ホフマンスタール『第 672 夜のメルヘン』における死と美
8. グリム童話の男と女
9. 『鼻』— ニコライ・ゴーゴリの世界 —
10. ラスコーリニコフの歩き方 — 『罪と罰』におけるペテルブルグ像の考察 —
11. バーバ・ヤガーの起源 — ロシア昔話における異教的な神話観 —
12. The Reception of Greek Tragedy in English Literature: A Study of English “Oedipuses”

表象：絵画・建築・映画・音楽・サブカルチャー

13. フェルメールの受胎告知 — 17 世紀オランダ・風俗画主流の時代の中で —
14. 建築が物語るプラハ — ゴシックとバロックの共存する街 —
15. ステンベルク兄弟のポスター芸術
16. サッチャリズムと映画のなかの労働者階級
17. 『風と共に去りぬ』の魅力を探る — 黒人奴隷の歴史とともに —
18. Gustav Klimt の描く女たち
19. ヤン・シュヴァンクマイエルの映像表現 — 『アリス』を中心に —
20. 『ウエスト・サイド物語』— ミュージカルと悲劇の融合 —
21. アメリカにおける黒人差別の歴史とソウル・ミュージック
22. ウィーン音楽のパトロンたち
23. 移民たちの想い — レゲエに込められたカリブ系移民の叫び —
24. パンク：音楽とファッションに見る 70 年代の若者文化
25. 表情から考えるトルンカの人形アニメーション — 長編 5 作品を中心に —

近現代の文化・社会問題

26. アボリジニの食文化
27. 女性と慣習 — 女子割礼について考える —
28. ヨーロッパサッカーにみる地域社会の哲学
29. 日本の移民問題を考える — フランスと比較して —
30. ドイツにおけるトルコ人移民労働者問題
31. The American Development of Feminist Consciousness as Reflected in Pop Culture

語学教育

32. 教育改革における英国と日本
33. Learner Autonomy in Foreign Language Learning Context

歴史

政治と法

34. 「聖なる王」－ フランス王権と聖性 －
35. 刑罰と刑吏 － もう一つの中世ヨーロッパ －
36. フランス第二帝政の軌跡 － ナポレオンⅢ世がもたらしたもの －
37. 「アウスグライヒ」体制の理念と現実

女性の歴史

38. スコットランド女王、メアリー・ステュアート
39. ひとつ屋根の下 － ヴィクトリア朝階級社会を生きた女性たち －
40. デンマーク女性たちの思い － その福祉制度への軌跡 －
41. Girls Education at Home: Historical Change in the Role of the Governess

民族と宗教

42. 中世ウェールズにおける物語集『マビノギオン』とケルト社会
43. 多宗教社会の成立 － 中世スペイン異教徒たちの「共存」 －
44. 「アイルランド人のアイルランド」を求めて－ 独立運動における「英雄」と民衆 －
45. ドイツに残るヒトラーの影 － ユダヤ人迫害の過去とその克服 －

都市と生活

46. 中世後期ヨーロッパにおける身体技術の変容 － 食事の規範形成 －
47. ハンブルクとブレーメン － 北ドイツ都市史研究 －
48. ヨーロッパ環境史研究試論

思想

自分と身の周りを見つめて

49. 現代の若者と若者文化
50. 癒されたい私たち － 癒し文化の諸相からより良い癒しを考える －
51. 「うそ」を考える
52. 死と向き合うために
53. 生命倫理における安楽死

古今東西の英知に学ぶ

54. 古代ギリシアの神託 － 神託は神のお告げか －
55. 『ゴルギアス』における正義
56. 騎士道と武士道
57. ロシア旧教徒の文化と思想 － 逃亡の中で形成された終末論 －
58. ヒュームの道徳論における「共感」について


欧米文化選修 教員紹介


Course in European and American Culture Studies

[五十音順]

	氏名	大西 洋一（おおにし よういち）
	専門分野	イギリス文学・文化
	主な担当 授業科目	現代文化論 II、言語文化論 III、表象文化論 V、英語圏文化文献講 読 VII・VIII・IX など
研究内容の紹介	王政復古期・18世紀の文学と文化、現代演劇、北イングランドの文化	
欧米文化で教えて いること	現代イギリスの社会と文化の理解を目標として、イギリスの様々な表象文化を読み解いたり、イギリスに関する英語のテキストを読んだりしています。扱うテーマは、現代社会における多文化、階級、地域的アイデンティティなど様々ですが、常にイギリス演劇作品との関連を考えながら授業を展開しています。演劇は、イギリス文化の柱であるだけでなく、イギリス社会を見渡すための重要な窓であると考えています。	
おすすめの一冊	20世紀イギリス演劇を代表する作品の一つである、J・B・プリーストリーの戯曲『夜の来訪者』（岩波文庫、2007年）をおすすめします（初演1946年）。娘の婚約を祝う裕福な実業家の家庭を一人の「警部」が訪れ、ある貧しい若い女性が自殺したと告げる・・・スリルと謎に満ちた楽しめるお芝居であると同時に、支配階級の欺瞞に満ちた行動を暴き、階級社会を痛烈に批判した社会派演劇の傑作です。	
これから受験を考 えている人へ	本選修では、欧米各国の多種多様な文化に関する授業を提供しています。皆さんにとってあまりなじみのない領域もあるかもしれませんが、未知なる文化との出会いがあってこそ、新たな自分を発見できるのではないかと思います。知的好奇心にあふれた皆さんを歓迎します。	
 	<p>私がイギリス滞在時に訪れた、ロンドンのグローブ座 [上]、そして北イングランドのハルにあるハル・トラック・シアター [下]（現在は新劇場が完成）という劇場の写真です。この他にも、滞在先のリーズを拠点にして、優に五十を超えるイギリスの劇場を訪れました。ナショナル・シアターのような最新設備の整った劇場から修道院跡地等での野外上演、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーのような全国的に有名な劇団から地域の演劇愛好家による素人芝居、そして中世の宗教劇から新作劇までと、様々なタイプの上演をこれまで見てきました。イギリスでは、演劇という文化がしっかりと街に根付き、そこでイギリスの歴史と文化と社会の様々な側面が演じられ、そして何よりも人々が演劇を楽しんでいるということを教えてくれたのが、これらの劇場です。</p>	

	氏名	川東 雅樹 (かわひがし まさき)
	専門分野	ドイツ文学、ヨーロッパ文化論
	主な担当授業科目	ヨーロッパ近代の芸術・文化、文化と流行、物語論 時事ドイツ語、入門ドイツ語、基本ドイツ語など
研究内容の紹介	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ文学に現れる感覚表現（視覚、触覚、嗅覚、聴覚等）に焦点を当て、人間のものとのとらえ方と現実世界との多様な関係の意義とその変遷を考えています。 2. 文化、芸術がそれを生んだ都市のイメージを築くのどのどのような役割を果たすかを考えています。 	
欧米文化で教えていること	<p>表面に単純に表れないなにかを読み取ることが学問の楽しさです。とりわけヨーロッパ文化の成果（絵画、文学、音楽等）にはさまざまな考えや意図が意識的に、あるいは無意識的に暗号化されており、そのためこれを解読していく喜びも提供してくれます。このような手法や考え方の仕組みを理解してもらおうと努めています。</p>	
おすすめの一冊	<p>「ギリシア神話」と「新旧約聖書」</p> <p>宗教、信仰という視点から推薦しているわけではありません。そこで語られる数々のエピソードが、ヨーロッパ文化、芸術（文学、美術、音楽、建築、映画など）の主題として、あるいは背景としてつねに見え隠れしているからです。知っていれば何倍も楽しめます。</p>	
これから受験を考えている人へ	<p>分かりやすい資格やスキルを身につけるのも大学進学のもちろん動機かもしれませんが、私の思う大学は、人間や世界を根本から考え、自立した大人とへと成熟したいという若者に提供された時間であり、空間です。その手助けができればうれしいですね。</p>	
	<p>ヨーロッパ文化研修旅行でのひとコマです。</p> <p>授業や特別ゼミで知識を得たヨーロッパの絵画、建築、音楽、歴史、生活を現地で間近で体験します。</p> <p>これはヴェネツィア・サンマルコ広場、鐘楼をバックに対岸の島から撮ったもの。この後、水上バスで本島に戻り、薄暗い教会で過去の人々の熱狂を想像し、宮殿の壁画で目を喜ばせ、小橋と路地の迷路を散策し、ヨーロッパ最古のカフェで一服して、時間の止まった水上都市の奇蹟を満喫しました。</p>	

	氏名	近藤 智彦 (こんどう ともひこ)
	専門分野	哲学・西洋古典学
	主な担当 授業科目	哲学概論, 西洋哲学史 I・II 古代ギリシア文明論 I・II, 古代ローマ文明論 I・II 古典ギリシア語, ラテン語
研究内容の紹介	古代ギリシア・ローマの哲学に軸足を置きながら, 他の時代 (近・現代の哲学など) や分野 (古代ギリシア・ローマの文学など) にも手を伸ばしている。	
欧米文化で教えていること	哲学関係の科目では, 哲学・哲学史の基礎知識とともに, とくに哲学的な文献の読み方を一から教えている。古代ギリシア・ローマ文化関係の科目としては, 映画や音楽の鑑賞を取り入れた入門的講義や, 古典ギリシア語・ラテン語の初歩や講読の授業などを担当している。	
おすすめの一冊	ホメロス『イリアス』(松平千秋訳, 岩波文庫, 1992) 欧米文化の劈頭を飾る古典中の古典。今も昔も変わらぬ人間の偉大さと卑小さが, ヘクサメトロスの韻律に乗って詠われている。翻訳でも楽しめるが, できれば大学でギリシア語を学び原文に挑戦してほしい。	
これから受験を考えている人へ	下に引くフーコーの言葉は, 狭い意味での哲学だけでなく, およそ学問と呼びうる学問のすべてに当てはまるだろう。「他のように考えること」の「修練」に対する好奇心と勇気をもった学生を歓迎する。	
「もし, また哲学の本領が, 自分のすでに知っていることを正当化するかわりに, 他のように考えることが, いかにも, どこまで可能であるかを知ろうとすることを企てることのうちになくしたなら, いったい哲学とは何であろうか? ……この《試み》——自ら自身の変容のための試練という意味であって, 他者を単純化して自己に同化するという意味に解されてはならない——こそ, 哲学の生きた身体であり, 少なくとも, 哲学がかつてあったように依然として今もあるとすれば, 思考における, いわば《修練》, 自己自身の鍛練である。」		ミシェル・フーコー『性の歴史 II: 快楽の活用』「序文」から (翻訳は, 神崎繁訳「快楽の用法と自己の技法」『フーコー・コレクション 5: 性・真理』ちくま学芸文庫, 2006による)


	氏名	佐々木 和貴 (ささき かずき)
	専門分野	イギリス演劇 (特にシェイクスピア)
	主な担当 授業科目	英米文学社会論、表象文化論 I、言語文化論 II、 英語圏文化文献講読 I~III、時事英語など。
研究内容の紹介	主として 16~18 世紀のイギリス演劇およびイギリス文化。	
欧米文化で教えて いること	イギリスの文学史・社会史の基本的情報 (「英米文学社会論」) シェイクスピアの演劇&文学作品の読み方 (「表象文化論 I」、「言語文化論 II」) 正確な英文読解&ヨーロッパ絵画の見方 (「英語圏文化文献講読」)	
おすすめの一冊	岩田 靖夫 『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア文庫) ギリシアの思想とヘブライの信仰から、ヨーロッパ思想が成立するプロセスを、明快に、しかも興味深く記述している。欧米文化に興味を持つ高校生にとっては、お薦めの一冊。	
これから受験を考 えている人へ	本選修は、欧米の文化を大学で本格的に学ぼうとする高校生諸君にとって、理想的な環境を提供してくれるはず。あとはやる気と努力次第。私たち教員は、出来るだけ、そのお手伝いをします。	



欧米文化選修 卒業研究中間発表会 (2009年10月)


欧米文化の4年生は10月に卒業研究の中間発表を行い、論文提出後、最終発表を行います。

	氏名	佐藤 猛 (さとう たけし)
	専門分野	中世ヨーロッパの歴史、とくにフランス王国の政治構造と法制
	主な担当 授業科目	ヨーロッパ文化史 ヨーロッパ史 ヨーロッパ史文献講読 ヨーロッパ史演習
	研究内容の紹介	英仏百年戦争からブルボン絶対王政まで、フランスという「国家」と「国民」がどのような過程で生まれ、まとまりを強め、その特色は何かを探っています
欧米文化で教えていること	上の研究内容に関する3つのテーマをおりませながら、授業を行います 1: 仏、英国、独という「国」や「民」の枠組みはいかにして形成されたか 2: とくに、ジャンヌ＝ダルク伝説はどのようにフランスの象徴となったか 3: 一方でキリスト教会は「国」の垣根を越えて、どんな役割を果たしたか	
おすすめの一冊	ヴィクトル＝ユーゴー『レ・ミゼラブル』(1862年): ジャン＝ヴァルジャンという名の脱獄囚が逃亡生活から資産家、政治家になり、慈善の道にいたる物語。ジャンヌは波乱の生涯のなかで、人間の個性や感情が「平等」と「正義」の名のもとにつぶされ、「自由」や「愛」が抑圧される“哀れな”社会を目撃する。西洋最大の遺産「自由と平等」とは何かを、いまの私たちにも投げかける大作。	
これから受験を考えている人へ	中世ヨーロッパは500年近く前、地球の裏側にあった世界です。ふだんは考えない、つまり大学でないとなかなか学べないような社会や人々が登場します。そんな世界をのぞいてみませんか? そこから何を汲み取るかは、皆さん次第です。	
		ジャンヌ＝ダルク (1431年処刑) は、「神の声」を聞いて、国王軍に奇跡をおこし、祖国を救ったといわれてきました。しかし、ジャンヌが実在したとしても、彼女は奇跡を起こしたわけではなく、たんなる占い師にすぎなかったという学者もいます。私たちが知っているそのドラマティックな生涯は、彼女の死後500年以上も語りつがれ、時にさげすまれ、時に崇められ、作り話も大いにあります。フランス社会はなぜジャンヌ＝ダルク伝説を作りだし、これを国の象徴にまでしたのか? そこにフランスという国の重大な特色があるかもしれません。
ジャンヌ＝ダルク教会: 彼女が処刑されたルーアンという街に1979年建設 (2008年撮影)		



	氏名	立花 希一 (たちばな きいち)
	専門分野	倫理学：批判的合理主義、ヘブライズム
	主な担当 授業科目	ヘブライズムの思想、現代思想論、現代思想論演習、ヘブライ語、倫理学概論
研究内容の紹介	現在は、日本の社会をより開かれた社会にするためには、どうしたらよいかを研究しています。	
欧米文化で教えていること	キリスト教とユダヤ教を比較しながらヘブライズムの思想を考察したり、科学と宗教を比較しながら合理性の問題を考察したり、日本の近現代史を閉じた社会と開かれた社会の観点から考察したりして、授業を展開しています。	
おすすめの一冊	私に最大の影響を与えている本は、カール・ポパーの『開かれた社会とその敵』（未来社）です。おすすめというか、読んでくれるとうれしいです。	
これから受験を考えている人へ	皆さんは生きるうえで何らかの問題を抱えているはずですが。そうした問題を可能な限り合理的に解決するためには問題の理論化が必要ですが、その手助けをするのが教員の仕事だと思っています。最初に主体的に働きかけるのは教員ではなく、あなたです。	



国際言語文化課程オープンキャンパス「世界の街角」展 (2009年8月)
欧米文化学生によるポスターセッション

	氏名	中尾 信一 (なかお しんいち)
	専門分野	アメリカ文学、アメリカ映画、文化研究、批評理論
	主な担当 授業科目	英語演習、国際文化理解Ⅱ、専門基礎ゼミⅡ、表象文化論Ⅱ、 文化とテキスト、英語圏文化文献購読Ⅹ～ⅪⅡ
研究内容の紹介	20世紀アメリカ合衆国の小説を中心とした文学研究。 アメリカ映画を中心とした映画研究。文化と社会と関係を考える文化研究。	
欧米文化で教えて いること	小説の読み方。文学作品の社会的・歴史的背景。映画の形式と表現技法。アメリカ映画史。小説と映画についての分析・批評の具体的実践。	
おすすめの一冊	J.D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』（高校時代、夜に布団にくるまって読みました。村上春樹訳もいいけれど、白水社版野崎孝訳も味わい深い。） （ついでにおすすめの映画）『未知との遭遇』（S. スピルバーグ監督、1977年）（中学時代、内容もよく理解できないまま、なぜか2回も見てしまいました。）	
これから受験を考 えている人へ	グローバルな社会に生きている私たちにとって、自国以外の国や地域で何が起きていて、どう考えられているのかを知ることが、単なる知識を越えて、切実な問題です。他の国や地域のことを知ることが、自分たちのこともよく理解できるようになります。欧米文化選修では、そんなことが楽しく真剣に学べるはずです。	

	氏名	長谷川 章 (はせがわ あきら)
	専門分野	ロシア文学・映画史・文化論
	主な担当授業科目	入門ロシア語・基本ロシア語・実務ロシア語 国際文化理解 II (ロシア・アニメ史) ロシア文化論入門 (ロシア文化の基盤について) 表象文化論 III (ロシア映画史)
研究内容の紹介	最初は文学研究が主でした。しかし、最近は映画を分析することで、20世紀から現代までのロシア文化全般を新しい角度から見直したいと考えています。	
欧米文化で教えていること	ロシア文化論を中心に教えています。ただ実際の講義では、ロシア語を学んでいない学生も多数受講しています。私の講義では、ロシアだけに閉じるのではなく、もっと広い世界とリンクさせながら、文化全体の問題を考えていきたいと思っています (もちろん、ロシアの文化もきちんと学べます)。	
おすすめの一冊	<p>ゴーゴリ 『鼻』 (ゴーゴリ『ペテルブルグ物語』 [群像社、2004年] 所収)</p> <p>みなさんのなかで本好きな人でも、現代日本の本が中心ではないですか？ 大学に入ったら時空を越えた乱読をおすすめします。</p> <p>ゴーゴリ『鼻』は19世紀ロシアの短編。ある日床屋が朝食のパンを切ったら、中から鼻が……という冒頭からしてとてつもない物語。シュールな笑いを楽しむうちにボディープローのようにこの世の不気味さが実感できます。なお、これでもゴーゴリはロシア小説の父です。</p>	
これから受験を考えている人へ	秋田大は国立では小規模です。その中の欧米文化はもっと小さな組織です。でも、小さいからこそ教員・学生間の交流は活発で、欧米の教員は学生をしっかりサポートしています。欧米文化では、ゼミや授業等をいろいろ活用して、みなさんの潜在能力をできるだけ引き出したいと考えています。	
		<p>ロシアへの学生研修旅行を時々企画しています。左は2009年3月に訪問したモスクワの日本風アニメ・カフェ。日本らしさを演出するため、ロシアのアジア系民族の女性がウエイトレスをしています (左から2番目の人)。</p> <p>現在のロシアでは、寿司、アニメ等、日本文化の一部が大流行です。でも、それがロシア人の日本理解に直接つながっているわけではありません。しかし、こうした問題点から出発することから国際理解は始まるはずなのです。欧米文化では、このような実践的な体験の場もできるだけ提供したいと考えています。</p>

	氏名	村上 東 (むらかみ あきら)
	専門分野	アメリカ合衆国の文学、文化。人権、環境問題。
	主な担当授業科目	表象文化論Ⅳ、現代文化論Ⅰ、比較文化論Ⅰ、大学英語、他
研究内容の紹介	冷戦期に生じたさまざまな矛盾（ナショナリズムと覇権主義、原子力問題、など）と文学、映画の関連を考えています。	
欧米文化で教えていること	格差社会と合衆国文学（表象文化論Ⅳ）、ユダヤ系アメリカ人とイスラエル問題（現代文化論Ⅰ）、人権問題、原子力問題、など（比較文化論Ⅰ）	
おすすめの一冊	鈴木真奈美『核大国化する日本 平和利用と核武装論』（平凡社新書）。海外から見た日本と国内のメディアが伝えることとはかなり違います。情報の管理、統制はどこにもあり、特殊な国だけではありません。そのことを学べる一冊です。鎌仲ひとみ監督の映画『ヒバクシャ』とあわせて、どうぞ。	
これから受験を考えている人へ	戦後の日本は合衆国の悪い面（例えば福祉や教育の軽視）をまねてきましたが、合衆国から学ぶべきことはまだまだたくさんあります。その両方をお話したいと思います。	
		国際言語文化課程オープンキャンパス「世界の新聞」展にて (2004年10月)